

東京新聞

中日新聞東京本社
東京都千代田区内幸町二丁目1番4号
〒100-8505 電話 03(6910)2211

玉露園



玉露園

http://www.gyokuroen.co.jp

紙面について

●電話 03-6910-2201
(土日祝日除く) 9:30~17:30
●FAX 03-3595-6935

東京新聞ホームページ

TOKYO Web
www.tokyo-np.co.jp

本紙記者が
ツイッターで
つぶやいています

東京新聞政治部
東京新聞けいざいデスク
東京新聞写真部
東京新聞鉄道クラブ
東京新聞文化部
東京ちゅん太(生活部)
東京レター(外報部)

3作同点から委員長一任

新国立競技場のデザインを決めた二〇一二年の国際コンペの最終選考で、三作品の評価が同点だったにもかかわらず、委員長だった建築家の安藤忠雄さんが一作品を外し、二作品に絞ったことが分かった。本紙が日本スポーツ振興センター(JSC)への情報公開請求で入手した審査委員の議事録で判明した。審査委員で最終的な判断を一任された安藤さんは、英国在住の建築家ザハ・ハディドさんの作品を選んだ。(森本智之) 関連①面

「新国立」選考の経緯判明



新国立競技場コンペで、最優秀賞を発表する日本スポーツ振興センター理事長の河野一郎さん(左)と審査委員長安藤忠雄さん(右)＝2012年11月15日、東京都千代田区で(坪真一撮影)

安藤忠雄氏 1点を除外

議事録などによると、一次審査では応募四十六作品のうちハディドさん、スタジアムの設計経験が豊富なオーストラリアのアラステル・レイ・リチャードソンさん、日本の妹島和世さんが代表のグループの三作品が高評価を集めた。十一作品に絞った二次審査では、審査員がそれぞれ一、二位に推す作品を投票。一位票は四票のリチャードソンさんが最多でハディドさん、妹島さんが三票ずつの次点だった。そこでこの三作品に絞って再投票し、今度は一位票がハディドさんの四票で、残り二作品は三票ずつだった。二位、三位票も含めた得票をポイント化すると、三作が十九点で並んだ。外国人審査員は一人が妹島さん、もう一人がハディドさんの作品を推した。

一部懸念の当選作即決

このため選考は難航し、とりまとめを求められた安藤さんは「この中ですと、圧倒的(に良い)」とリチャードソンさんかハディドさんに決めることを提案し、理由を示さず妹島さんの作品を除外した。委員から「委員長の判断で」などと声が上がると、「日本の技術力のチャレンジ」としてハディドさんに即決した。議論の中でハディドさんの案は巨大で迫力あるデザインが絶賛される一方、「神宮外苑の景観として異物が挿入された感否めな」と景観面や、コスト面を問題視する意見が出た。スロープが首都高速やJRをまたぐなど、公募条件の建設範囲を逸脱していることにも懸念が示された。

安藤さんは当初から他の二作品に対し「(屋根のデザインが)技術的に難しい」「少し平凡な感じ」などと指摘、ハディドさんのデザイン性を高く評価した。「(問題点があっても)強いコンセプトがあれば修正可能」「ものすごくシンボリックで、おもしろい」と述べていた。

安藤さんの事務所は「個別の取材には応じない」とコメント。

審査委員の岸井隆幸日大教授は「議論が強引に引き回されたことはない。一般論だが、議論を尽くして決まらない場合に、議長(委員長)がその役割を果たさなければならぬことはそれほど不自然なことではない」とメールで回答した。

新国立競技場のデザインコンペ。2012年7月11月に行われ、46点が応募。1次審査で11点に絞り2次審査でザハ・ハディドさんの作品を選んだ。審査員は安藤忠雄審査委員長、内藤廣(ひろし)さんら建築の専門家10人で構成したが、英国の著名建築家リチャード・ロジャースさん、ノーマン・フォスターさんの2人は会議には出席せず、事前説明を受け2次審査の投票結果だけ提出した。

TPP秘密交渉

【オタ】太平洋連の首席交渉官